

本立道生*

対談 中国経営トップのリーダーシップストーリー

第11回

新時代が求める価値を生み出す

山梨学院大学
国際リベラルアーツ学部(iCLA)
学部長補佐

インヴィニオチャイナ
総経理CEO

※『君子務本、本立而道生』(「論語」学而編より。君子は本を務む。本立ちて道生す)。立派な人は根本的な事柄を大切にする。それがしつかりしていくこそ、初めて各々の進むべき道が見えてくるものであるという意味。

武内 隆明 氏 × 大城 昭仁

第11回は、山梨学院大学国際リベラルアーツ学部(iCLA) 学部長補佐、武内隆明さんです。

大城 久しぶりの上海ですね。

武内 なんと、3年ぶり。地下鉄の駅や路線が一層増え、人もみんなキレイになってきた。そしてびっくりしたこと、乗車時、ホームで列に並んでる。

大城 今回は、「教育」に関して何か仕掛けに来られたとか。野村證券、

ゴールドマン・サックス・アセット、UBS信託銀行を経て、ブレデンシャルFA証券では社長も務められました。一転して、上海での6年半はコンサルティング。そして今なぜ教育なのでしょうか?

武内 最近、Oxford大学の教授が、現存の約50%の仕事が人工知能(AI)に置き換えるという予想を発表して話題になりましたね。AIが大学入試の模試を受けて、既に偏差値50以上になったというニュースもありました。こんな時代、本当の「人間の価値」が問われています。「今後の教育とは」を根本から見直さないといけない気持ちになりました。

大城 同感です。ダニエル・ピンクは、我々の仕事は3つのA(Asia、Automation、Abundance)に奪われると言っています。ゴールがまづくりしない、解のない時代になつて、考える根本的部分が問われますね。

武内 「東大に入るぞ!」の

ゴールでは、「人」としては、寂し過ぎる。僕は父の仕事の関係で、小学校はマニラ日本人学校にもお世話になりました。中学・高校は帰国し、その後、大学は北米東部のWilliams Collegeというレジデンシャル・カレッジに進んだのですが、ここで学んだ『リベラルアーツ』が、これからの激動の時代を生き抜くに必要な教育のヒントがあると痛感したのです。

大城 「教養」とも訳されますが、元は、ギリシャ時代の「自由人となるための学問」ですね。他人の意見や世の中の偏見から解放されて、自分で自由に考えるための「知恵」と解釈しています。

武内 そのリベラルアーツです。私が通ったWilliams Collegeは、全米No.1のリベラルアーツ・カレッジ(※全米大学ランキング→(<http://forbesjapan.com/articles/detail/7745>)なんですが、ここで学んだ教育をアジアにも紹介し、僭越ながら少しでも啓蒙できたらと考えました。そして今年の4月に、山梨学院大学が起ち上げたiCLA(国際リベラルアーツ学部)に参画したんです。アジアNo.1のリベラルアーツ・カレッジを



武内 隆明(たけうち・たかあき)氏
山梨学院大学国際リベラルアーツ学部(iCLA)
学部長補佐

2015年iCLA(International College of Liberal Arts)学部長補佐
2002年Prudential FA Advisors Sec.代表取締役社長
1996年Goldman Sachs Asset Management
ワイス・プレジデント
1984年野村證券調査アナリスト



上海日本人学校高等部での講義(15年11月)

創って、教育界に新風を吹き込みたい。今回、香港地区・韓国・上海など訪問して来たのも、世界中の優秀な生徒とその保護者に、このような教育がある事を御紹介する為です(幸い、上海日本人学校(高等部)では先月に引き続き、新年早々にも講演する機会を頂いております)。

真のリベラルアーツ教育で「幸せ」に

大城 リベラルアーツ教育の神髄は何ですか?

武内 右脳と左脳を両方とも使つた、『普通ではあまり考えないものを、深いレベルで関係付けられる様になる事』でしょうか。米国のリベラルアーツ・カレッジで、S.ジョブズ氏がカリグラファー(西洋書道?)を学んで、AppleというIT会社を創設した様に、AINシュタインも6歳から練習していたバイオリンがなければ、相対性理論は閃かなかつたと文献に記しています。

大城 私は中国に来るにあたり、中国の歴史や思想を学びましたが、それがビジネスの判断に非常に役立っています。語学やMBAのような「知識」も当然必要ですが、それ以上に、より根底にある「知恵」を積み重ねた、教養を身につけることが重要だと実感しました。

武内 即戦力となる「知識」は、今後10数年間に、ますます陳腐化していくでしょう。特に若者は、将来長い人生を振り返った時にしっかりと「幸せ」と感じる為に、とにかく幅広い異分野(WIDE)を、バランス(BALANCE)を保ちつつ、意外な関係構築(CONNECT)が可能かどうか、失敗を恐れずに、絶えず切磋琢磨し続けてみるべきですね。

大城 iCLAの教育像ですか?

武内 iCLAの教授陣は、Harvard大学やCambridge大学など出身の世界トップクラスの学者や、一流のグローバル・ビジネス出身者の方々です。一方で、母体となる山梨学院大学は42名ものオリンピック選手を輩出しており、超一流的のスポーツ選手の「鍛錬」が必要不可欠な校風を創立70周年にわたり培つてきました。これらが、もし化学反応を起せば、面白い事になると期待しています。

「人に喜ばれること」を突き詰めてする

大城 なぜ、このような取り組みをされているのですか? そのあたりに、武内さんの「本」を成す部分があるのでないかと思いますが。

武内 「長期的に、人に喜ばれる事をする」というのが、私の根幹の考え方です。単に短期的にだけ喜ばれる事ではなく、人生を振り返って、本当に喜ばれる事をするには、トコトン熟考しなければなりません。掘つて掘り尽くす。その奥に初めて、清い水が流れている。これは、野村證券の「後輩」の大城さんも御存知の考え方ですね。



大城 昭仁
英必諾企業管理諮詢(上海)(インヴィニオチャイナ)
董事兼総経理CEO

野村證券、独立系投資会社を経て、2004年にインヴィニオに入社。100社を超える上場企業において、次世代リーダーの育成、営業組織のパフォーマンス向上、組織のペーパル統合などのプロジェクトを主導。11年より現職。社団法人日本証券アナリスト協会検定会員(CMA)、国際公認投資アナリスト(CIIA)。上海市浦東新区外商投資企業協会常務理事。中国の大手研修誌の理事も務める。

大城 私も身にしみて経験してきました。最後に、中国で奮闘している読者の皆さんに一言、お願いします。

武内 異文化体験は、新しい価値を生み出す絶好の機会です。この時期に中国で働く事は大変ですが、それだけに、人間的成長のチャンス也非常に大きい。是非とも、試行錯誤しながら、踏ん張って頂きたいと思います。

INVENIO CHINA

Discover the Potential for Leadership
英必諾企業管理諮詢(上海)
(インヴィニオチャイナ)

1997年にマッキンゼーのOBによって設立。経営的視点から、人材育成、企業文化の変革や理念の浸透に取り組んでいる。研修やワークショップ、オフサイトミーティングの場を使いつ、組織・人材の潜在力をEducate=引き出しで鎮在化させる独自の手法を強みを持つ。

■上海市浦東新区世紀大道8号
国金中心2期8楼
☎ 021-6062-7290
✉ <http://www.invenio.cn/>
✉ infochina@invenio.jp